

今年もよろしくお祈いします。



そまのま



新しき山人たちの羅針盤

第 8 号

NPO 法人 山の杜 学会

〒501-3781 美濃市片知 1109-4
森づくり片知支援センター内

TEL & FAX 0575-37-2115

URL: <http://www.somanomori.or.jp/>
e-mail: info@somanomori.or.jp

(発行日：平成 18 年 1 月 1 日)



みの森林塾に参加して

岐阜県立森林文化アカデミー 助教授

原島 幹典

この春、初めて岐阜の地を踏む事になった私が、右も左もわからぬまま、図々しくも指導スツとして参加させて頂いた「みの森林塾」につきまして、感想を書かせて頂きます。

東京の外れの田舎町で都会から通ってくる方を対象にした、いわゆる森林ボランティア養成講座のような場は数多く体験してきたつもりですが、「みの森林塾」は多くの点でそれまで私が抱いていた森林ボランティアについての固定概念を覆してくれた印象深い活動でした。参加者の多くがすでに顔見知りであることは珍しくない事ですが、それにしてもこの、ただならぬ親密感、肩からまるで力が抜けている様子は

つたい何なのか？一方、地域の森の整備にただならぬ熱い思いを抱いておられるのを肌で感じる。なんか、とつても不思議な感じ……。一般的には、熱意を抱くと同時に肩に力が入り、「よし俺の力でこの森を何とかしてやるぞ！」とか、植物生態に関する高説を振りかざされたりする場合が多いのに、そのどちらでもなく、実にフツーに、森林整備なのです。ううむ、これはいつたい???。回を重ねる中で、地域在住の方々がいろいろ話をされているのを小耳にはさむと、これが実におもしろい。地域の裏話が次から次へとつきることがない。そんな場面に出会ううちに気づいたのです。あ、そうか、この人達は昔やっていたのと同じ感覚で、裏山の片づけをしようとしているに違いない！と感じたのです。

「昔と同じ」というのは、地域で寄り合い、道を直したり、屋根を葺き替えたり、草刈りをしたり、祭りをしたり、葬式を出したり、という地域単位で行う協働作業という意味です。行政改革の一環とやらで合併がはやる昨今、地域という概念すら消えつつある中、ここ美濃市はあえて自らの地域性にこだわり、規模に頼らず、時代に醸され、祖先により引き継がれてきた美濃文化を軸に、マンパワーによる活性化を目指しているまちでした。そのまちに生まれ育つた

方が集まったのです。自分の地域の森を地域の住民が世話することは、ごくごく当然で、ボランティアでも何でも無い。当たり前だのクラッカーなのです（これ、通じますか？）。だから、肩の力も抜けるどころか、はじめから入ってないのだ。みんな、自分たちの森だと思っているから、近くに住んでいるものが手弁当で草を刈り、間伐や枝打ちをして、明るくて入りやすい状態を保つことは、地域にとって大切な事なんだと、誰よりわかっている人たちだったのだ。東京近郊の森林ボランティア活動では、地域とは縁のない人が突然近所の森に入り、自己完結して終わるパターンがほとんどであり、下手をすると、地域の人たちは最後まで彼らと一切接点を持たないことも珍しくない。この違いなのだ。地域の森の管理は、地域に住む人たちの手によって、親から子へ、子から孫へと受け継がれてゆく伝承の場であり、善良なる地域の構成員である何よりの証なのである。地域の森が荒れてゆくことこそ、その地域が壊れかかっている事を如実に示しているのだ。そういう地域で呼びかけがあったとしよう。「地域の森の手入れをするからみんな集まってくれ、役場でも応援してくれるし。」すると地域の誰かが言う。「みんな忙しいから、そういう手がかかることはお金を集めて本職を頼むほうが安くて早くて

上手だ。持ち主に言えばいいじゃないか。」そういう意見に堂々と反論できる骨太の長老はすでにあの世へ行き、誰もが同意するから、村の協働作業はどんどん消えるのである。



講義中の原島さん

仕方のない事ではあるが、日本人が長い時をかけ、丁寧に丁寧に紡いできた、その土地に適した暮らしの文化を、私たちはいとも簡単に捨て去ろうとしている。でも時代にあらがう術がない、どうすることもできない・・・と、あきらめていた私の目の前に、そのお手本を見せてくれたのが、みの森林塾に集まった美濃のおやじさん達だったのである。ありがと、地域の森は本当はこうして守るんだ、というお手本を学ばせて頂きました。

最後に、このような機会を与えてくださった美濃市の村瀬さん、NPO 杣の杜学舎の鈴木さんに、心より感謝申し上げます。

とりあえずやってみよう

栃川 孝弘

杣の杜学舎に参加して約4ヶ月、真夏からのスタートで熱中症、ギックリ腰など三度のダウンを経験、一日毎に足の皮を更新しながらどうにか続いています。渓流釣りがきっかけ「川守」願望から始まる迷路の中に選択肢として山仕事があったものの、一歩踏み出す機会を得た、歩き出したら道らしきものがある、今はそれが「川守」あるいは「山守」に繋がるか問うこともなく歩んでいるだけです。

しかし、森林文化アカデミーでの短期講習は経たものの五十過ぎのドシロウトが活動できる「場」を得たこと、なにより既存の林業に不信と不安感を抱きつつも山仕事に興味を持つ自分にとって、体力や技量に応じて試行できる立場でいられることは貴重だと思っています。自分本位のバランスがいつまで保てるか、さらに一歩踏み込めるか保留しつつ、とりあえず成立させたモラトリアム状態は居心地のよいものです、それでも鈴木さんの「おもしろくする」という言葉に共感もし、なにかを期待している自分もいる。そろそろ頭の方の更新もしなくては……。今はまだ外から見ている立場ですね。

【活動報告】

二〇〇五年夏、冬

以安寺山景観形成整備工事

美濃市の中心部に位置する以安寺山の景観整備を本年度から手掛けることになりました。整備は四力年計画で、今年度は東側の竹林、ヒノキ林の整備、尾根の遊歩道整備を実施しました。また、この現場は美濃市の主催する「みの森林塾」や岐阜県主催の「里山活用マイスター養成講習」の実習現場として活用しています。



この山が以安寺山。ひょこりひょうたん島（知ってるかなー）のようでもある。



整備で伐った竹をチップで処理。



山の尾根部を伐開し、歩道を開設。

「里山人工林の整備実習」

第5回（十月二十二日（土）実施）

手ノコとは比べものにならない作業スピード。安全第一を常に心がけることが大切です。



現場へ行く前にチェーンソーの基本操作を学びます。

ソーの取り扱いと里山人工林の間伐実習」

第4回（九月二十四日（土）実施）「チェン

寮で行いました。

みの森林塾の後半（4回・5回・6回）の講義を以安寺山と片知生涯学習センターの炭やき



「炭やき実習と意見交換会」
 第6回（十一月二十二日（祝）実施）



伐倒作業に挑戦！



目立てはこのように・・・

美濃市を中心に約5ヘクタールの間伐を完了し、春までにさらに5ヘクタールの間伐を予定している。来年度は、蕨生（わらび）地区の森林所有者に呼びかけて、山の境界確認と間伐をセットで実施する予定である。

間伐事業

薪割りでストレス解消



炭やきは楽しい。



これが、ドラム缶高速炭やき窯です。なかなかすぐれもので、木酢液も採れます。



これが、林業用モノレール。
 山から木材を運び出します。

（鈴木）

林業用モノレール作業試験
 岐阜県森林科学研究所からの委託で、林業用モノレールの敷設と作業効率試験を実施した。



間伐後のヒノキ林

雪の降りやすさ 気まぐれ指数100% コラム

地球温暖化の影響かここ何年も暖冬気味でしたが、今冬は、師走の声を聞かないなや雪の降る、厳しいものとなりました。しかも一時的な雪に終わるかと思いきや、寒気が長く居座り、地元美濃市でも雪の降る日が何日もありました。近年は十二月に一度ぐらい雪が降って、本格的に降るのは年明けてからというのがパターンでしたので、いきなりの雪に見舞われた方はかなり影響を受けられたのではないのでしょうか？

杣の杜学舎も色々影響を受けました。作業ができず休みになることは勿論ですが、今年度手掛けている以安寺山の整備事業では、雪のため竹が大きく曲がり、道路へ覆いかかったりした竹を何本も切りました。

また、この時期のメイン作業は間伐ということになりますが、雪は間伐作業にも影響します。冠雪状態のまま木を切りますと、木が倒れると

共に雪も自分に降りかかってきます。当然、冷たい思いをしますが、時に凍りかけた塊状のものが降ってきて体に当たり、非常に痛い思いをする事もあります。場合によっては怪我にもつながりますので、作業はできるだけ木に積もった雪が融けてから行います。一方で雪の積もった状態の方が良いこともあります。林内の凹凸が少なくなり、移動がしやすいとか、切る時の足場が確保しやすいといったメリットがある感じがします。急傾斜地では滑りやすいとか、雪で下が空洞になっているのに気づきにくいということもありますので油断はできませんし、今回のような大雪の場合は作業が困難になってしまいます。

今回の雪で心配されるのが雪害です。四年前の大雪では多くの人工林が被害を受けました。雪害により折れたり、曲がったりしますと、木材価値が無くなり、今までの山への投資もフィになってしまいます。また、共倒れも起こしやすいので、地盤が崩れやすくなり、二次災害を引き起こす可能性もあります。こういった災害に強い森づくりをしていくことも大いに必要とされています。この冬、雪害が起こらない事を祈るばかりです。

(山中)

このくらいの雪ならへっちゃらですが



銀世界になった間伐地

山主さんを探しています

山の杜学舎では、山の健康診断（無償）を行っています。遠目には緑豊かな山々も、一歩中に入ってみると昼間でも真っ暗、枝は枯れ上がり、線香のようにひよる長く伸びたスギやヒノキ、地面は草も生えずにむき出し状態。そんな山が最近増えてきています。これは、戦後に植林されたスギ・ヒノキなどの多くの人工林で間伐などの保育作業が遅れ、過密状態に陥っているからです。このまま放置すれば、木材資源としての価値を失うばかりでなく、風雪害に弱く水源の涵養・地盤の保持といった森林の持つさまざまな機能も失われてしまいます。また、木材生産を放棄した人工林であっても適切な施業により環境林へ誘導して行く必要があります。

しかし、山の管理や山の将来が心配でも、どうやって山の手入れをしたらよいか分からない山主さんがいらっしやるのではないのでしょうか。山の杜学舎が行う山の健康診断では、結果をもとに山の診断力止りを作成し、山主さんに現状の森林の状況を説明し森林管理の提案を行います。

間伐などの森林整備は、一刻を争う急務となっています。皆さんのご協力をお願いします。

こんな森林を探しています

美濃市および美濃市近郊の森林。
35年生までの人工林。（間伐補助金の利用で所有者の負担金無しで間伐ができる場合がありますのでご相談ください。）
概ね1ヘクタール程度以上の森林で、境界が確認できる森林。

お知り合いの山主の方（もちろんご自分の山でも結構です）がいらっしやいましたら、ぜひとも山の杜学舎をご紹介くださいますよう、よろしくお願ひします。

連絡先（昼間は事務所が不在がちですので、

FAX又は留守電をご利用ください。）

電話・FAX 0575 37 2115

メール info@somanomori.or.jp

担当 鈴木・山中・小泉



山の健康診断の様子

【編集後記】

新年明けましておめでとございませう。
昨年の皆様からのご指導、ご支援に感謝しますとともに、今年も変わらぬご指導、ご支援のほどを、宜しくお願ひ申し上げます。

昨年十二月の大雪には驚かされました。各地から観測史上初、何十年ぶりの積雪、低温という報告がもたらされました。みなさんのところでは影響ありませんでしたか。山の杜学舎では、山中さんのコラムにあるような影響がありました。また、間伐地選定のために山主さんに立ち会ってもらう予定が雪で延期になり、恨めしく雪空を見上げるといつことが続いていました。

さて冒頭の記事にあるみの森林塾ですが、美濃市の主催で、原島さんと山の杜学舎の鈴木さん、山中さんが講師を担当しているものです。原島さんが感心している「地域の力」を今後の山づくりに活かせる道を創っていくことがこれからの課題です。

もう一つの記事は昨年夏から山の杜学舎に参加してもらっている板川さんからです。貴重なメンバーとして活躍してもらっている一方、これまでの意気込みだけが熱いスタッフの中に、年長者としての落ちついた雰囲気を加えてもらっています。

（小泉）